

第220回 番組審議会

1. 日 時 平成25年3月12日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 12名
出席委員数 10名(欠席委員数 2名)

○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)
竹中 陽一(副委員長)
—以下50音順—
木戸場美代子
斎藤 雅博
東海林 千秋
菅原 正二
原 圭介
八木橋 伸之
役重 真喜子
吉田 浩次

○ 会社側出席者(7名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)
小原 忍(専務取締役)
藤澤 利憲(常務取締役)
前田 秀男(取締役編成技術局長)
藤原 銀司(取締役営業局長)
君沢 温(岩手めんこいテレビ編成部部長)
紅屋 幸樹(めんこいエンタープライズ制作部)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4、議題 『呼び起こせ！三陸魂～活力あふれる故郷の明日に向けて～』

平成25年3月2日(土)午後3時55分～放送

5. 議 事 概 要

今回は3月2日(土)の午後3時55分に放送された『呼び起こせ！三陸魂～活力あふれる故郷の明日に向けて～』を審議しました。議事の概要は以下の通りです。

● 岩手めんこいテレビ 君沢プロデューサーの説明

- ・震災から2年。復興のスピードがあまりにも遅いというのが、被災した方、取材する我々の正直な感想だと思われる。
- ・3月11日を迎えるにあたり、めんこいテレビでは2つの番組を制作した。報道部で制作する「復興の槌音」では、復興の諸問題について検証をテーマとし、「三陸魂」では、ポジティブに復興を歩む団体、人を主題とした。

●めんこいエンタープライズ 紅屋ディレクターの説明

- ・「三陸魂」は、昨年につき2回目の放送となる。今回は、3つのテーマをそれぞれ7分程度にまとめた。
- ・宮古市鉾ヶ崎地区に再建された番屋は、回来船の乗組員の福利厚生施設、休憩施設。震災後1ヵ月で魚市場が再開され必要性が高まり再建された。4ヶ月で500名ほどの利用者がおり、宮古市の復興の一助となっている。
- ・野田村は、岩手県内のホタテ養殖の種苗供給基地。県内のホタテを絶やすことは出来ないという責任感から、震災後すぐホタテを育て出荷を再開した。
- ・陸前高田のキャピタルホテル1000の総支配人となった人首ますよさんは、「海鮮処ひと

かべ」のご主人だった。店、自宅も津波で流された。悩みに悩んで引き受けた支配人。どん底から這い上がろうとする姿を追った。

● 出席委員からの意見

- ・ 明日への希望が感じられ被災者を勇気づける内容だった。
- ・ テーマの選択も良く、興味深く見ることができた。
- ・ 活力溢れる故郷の明日に向っている人を取り上げ、元気を発信する良い番組だった。
- ・ 悲惨さを強調した番組と一線を画した内容で好感が持てた。
- ・ 「急がずに一步でも半歩でも」「今までの生活に戻れることが幸せ」「2年ぶりにいらっしやいませと言ってうれしかった」など、印象深い言葉が多数あり心にしみた。
- ・ 被災者が抱えている怒りや本音を入れた方がよかったのではないか。
- ・ BGMが感情を煽っているように感じられるところがあった。
- ・ 復興とはどのようなものなのか、全体像を捉える必要があったのではないか。
また、復興が進まない現状を掘り下げ、復興を進めていくにはどうすればいいか
問題点を指摘してほしかった。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置
特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日
* 平成25年3月13日(水) 産経新聞 東北版

* 平成25年3月23日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番
審りポート」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし